

## 第49回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 全国大会岡山大会の誌上発表に寄せて

全国大会岡山大会実行委員長  
岡山市立石井小学校長 竹本 俊哉

2020年7月、岡山市で第49回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会岡山大会を開催する予定で、数年前から岡山県の担当者が話し合いながら準備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルスの感染が広がり、全国から多くの先生が集う大会を開催することは難しいと考え、大会を中止いたしました。本大会では、大会主題を「学ぼう 磨こう 伝えよう ～難聴・言語障害教育の専門性を考える～」として、難聴・言語障害教育の専門性の継承について、全国の先生方と共に考え、意見を交わらせるような大会にしたいと願っていました。また、記念講演、分科会の講義や実践発表を通じて、専門性をさらに高める機会となるように、講師の先生方をはじめ、発表者の先生方は、準備を進めてくださっていました。皆様と顔を合わせて学び合う機会が得られなくなったことを大変残念に思っています。

しかし、全難言協事務局の先生方のご提案で、これら貴重な講義や発表の内容を機関誌「きこえとことば」の中に掲載していただけることになりました。ここに、研究集録が完成し、全国の先生方にお届けできることを心からうれしく思います。ぜひ、お読みいただき、今後の難言教育の専門性向上と継承のために役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、誌上発表のためにご協力くださった先生方には心より感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染が終息し、今後の大会が無事開催されますことを願っております。皆様方には、児童生徒への指導の充実と、難言教育の発展に向けた取組を進めてくださいますよう、どうぞよろしくお願いたします。

### 【大会主題】



学ぼう 磨こう 伝えよう  
～難聴・言語障害教育の専門性を考える～



©岡山県「ももっち・うらっち」

難聴・言語障害教育に必要な専門性とは何でしょう。難聴・言語障害に関する様々な知識や指導技術はもちろん、近年は、発達障害に関する内容も求められるようになってきました。加えて、教育の中で行う私たちの仕事には、狭義の知識や指導技術だけではなく、教育の場だからこそ大切にしたい関わり手としての専門性もあるのではないのでしょうか。

しかし、担当者が数年で交代し、経験の浅い担当者が多くなったことで、これまで受け継がれてきた難聴・言語障害教育の専門性の継承が次第に難しくなっています。

そこで、本大会では、難聴・言語障害教育の専門性についてあらためて考えたいと思います。そして、難聴・言語障害教育に携わる皆様と共に、基本的な知識や指導技術、関わり手としての専門性を「学び、磨き、伝えていく」機会にしたいと考えています。